

コミュニケーション能力UPの日本語教室

広島県福山市市民局まちづくり推進部人権推進課



1. 福山市の概要

福山市は、広島県の東南部、岡山県に隣接し、瀬戸内海国立公園のほぼ中央部に位置しています。

本市には、万葉集にも詠われ潮待ちの港として栄えた「鞆の浦」があります。

また、市の花「ばら」が咲き誇る5月に行われる「福山ばら祭」では、80万人以上の来場者を迎え、ローズパレードやばらのコンテストなど多彩なイベントが行われ、まちがばら一色に染まります。

2016年の市制施行100周年に向けて、まちをばらの花とローズマインド（思いやり、優しさ、助け合いの心）でうめつくし、「100万本のばらのまち福山」の実現に向け取り組んでいます。

福山市に住む外国人市民は、1985年12月末に1,640人でしたが、2014年9月末現在では6,452人となっています。（46カ国）

2. 事業実施に向けた方針

「第四次福山市総合計画 後期基本計画」

将来都市像「にぎわい しあわせ あふれる躍動都市～ばらのまち 福山～」の実現をめざし、第四次 総合計画後期基本計画の、「国際化の推進」では、多文化共生の推進を図るため、より実践的で心豊かな交流が育まれるよう、理解を深める仕組みづくりを充実しています。

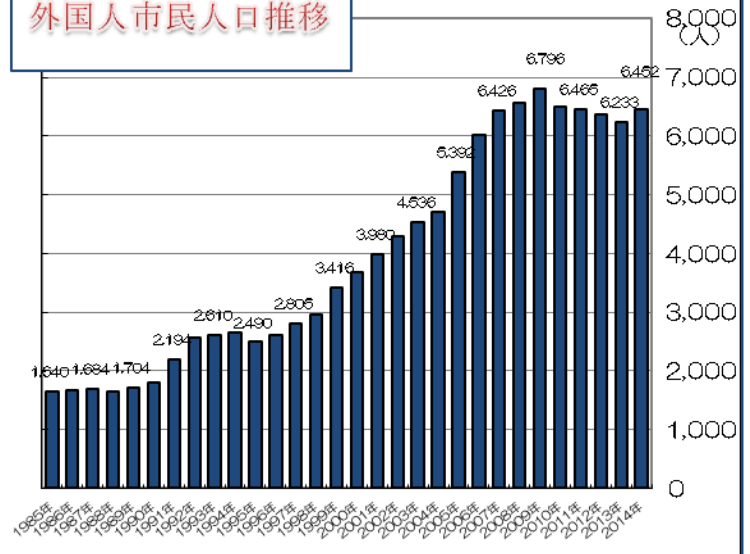
「福山市国際化推進プラン ～多文化共生社会の実現をめざして～」

「市民が世界の人々とともに生きるまち」とし、だれもが地域の一員として、ともに暮らせる「多文化共生のまちづくり」を推進しています。

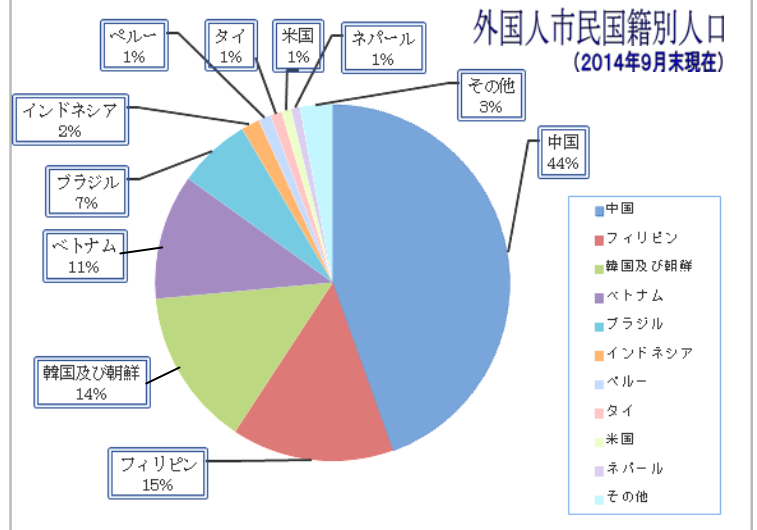
「福山市人権施策基本方針」

基本理念を「人権文化が根付いた地域社会の実現」とし、年齢、性別、国籍、障がいの有無など人々のさまざまな個性や違いを超えて、だれもが「生きがい」を持ち、積極的に活動できる社会をつくりだし、「まち」や「もの」が、すべての人に暮らしやすく配慮され、お互いが助け合える社会、いわゆるユニバーサルデザインのまちづくりの意識を、すべての市民がお互いに理解しあいながら、尊敬しあって生きる社会をめざしています。

外国人市民人口推移



外国人市民国籍別人口 (2014年9月末現在)



3. 平成 25 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の概要

○事業内容の概要

日本語教室では、地域住民とのコミュニケーションが一層図られ、地域の一員として生活できるよう、生活に直結した日本社会の制度を学び、地域活動を通じて必要な日本語能力の習得を図ります。

市内で開催されている日本語教室は8教室ありますが、開催地域が限定されているため、外国人市民がより参加しやすいよう開催場所を増やしていくことが望まれており、将来の自主的運営をめざして新たな教室を開催し、事業内容を検証することにより日本語教育の体制整備を行いました。

取組 1：日常生活に必要な日本語教室

取組内容

日本の年中行事や習慣を理解する。子どもフェスティバルやカープデーなどの市全体の行事に参画することを通じて、コミュニケーションを図りながら地域生活に役立つ日本語能力の向上を図ります。

参加者の総数 8カ国 36人

(出身・国籍別内訳 インドネシア 13人、中国 7人、ベトナム 5人、タイ 5人、フィリピン 2人、ブラジル 2人、スペイン 1人、台湾 1人)

開催時間数 (回数) 49時間 (全 15回) **場所** 市役所会議室

取組の目標の達成状況・成果

子どもフェスティバル、まつながカープデーなどの実地研修を取り入れたことにより、母語の挨拶を紹介するだけでなく、質問に臨機応変に対応することが求められることがあり、こうした行事への参加はコミュニケーション能力を高めることにつながりました。



取組2：日本語教室連絡会議

取組内容

日本語教室の運営、関係機関との情報共有、意見交換、多文化共生の地域社会に向けた意識啓発など運営上の課題点を共有することにより、教室間の連帯や情報提供を行います。年間2回（8月・3月）

取組の具体的内容

各日本語教室の情報提供や意見交換を行い、総合的な発展をめざします。新たな日本語教室の開設をめざして方を検討します。

- 1、各日本語教室の運営状況について
- 2、「生活者としての外国人」のための日本語教育事業について
- 3、情報交換、意見交流・指導者ボランティアの確保について
・相談事例について



取組の目標の達成状況・成果

各教室は個別に運営しているが、ボランティア不足等抱える課題は共通するものも多く、意見交換する中で、円滑な運営に結びつけることができました。また、各生涯学習センター管内で日本語教室の開設に向けて取り組むことを確認することができました。

取組3：事業内容、結果、評価の周知

取組内容

市広報をはじめ、市ホームページに事業周知や事業評価について掲載するとともに、NPO法人のホームページへの掲載やブログ、コミュニティ放送の多言語放送番組により事業の周知を行いました。

エフエムふくやま（77.7MHz）多言語放送「地球市民」

- 第1週：ポルトガル語（アミーゴ！地球市民）
 - 第2週：韓国語（ヨロブネ！地球市民）
 - 第3週：中国語（大家好！地球市民）
 - 第4週：ベトナム語（カイ チョム チョム！地球市民）
 - 第5週：タガログ語／英語（クムスタ！地球市民）
- 毎週木曜日の12時15分～12時58分のランチタイムに放送
（生放送43分）ウェブラジオでも同時放送
再放送（翌日金曜日の22時00分～22時43分）



取組の目標の達成状況・成果

ホームページにより、教室の最新情報をその都度情報提供することができました。また、コミュニティ放送を通じて事業の周知を図ることができました。

○事業に対する評価について

事業の目的の達成状況

日本語教室では、子どもフェスティバル、まつながカーブデューなど全市規模の交流行事にボランティアスタッフとして参加することにより、母語での挨拶を紹介しながら、子どもや保護者と日常生活に密着した日本語の学習ができました。

日本語教室連絡会議では、各教室の情報を共有することにより、新たな教室開設に向けての方向性を出すことができました。市内のどこからでも参加しやすいように、6生涯学習センターの管内に教室の開設が必要ではないかとの意見があり、開設のない地域で公共交通手段で行きやすい場所（コミュニティセンター等）での開設をめざしています。

事業内容の周知方法等については、各日本語教室や外国人支援団体を通じたり、コミュニティ放送（エフエムふくやま）や受講者のSNS（フェイスブック等）のネットワークを活用することにより、効果的な情報提供を行うことができました。

地域における事業の効果、成果、今後の方向

多文化共生社会の実現は、行政だけで実現できるものではないため、自治の主体である市民が、対等な関わりを築き、日本人市民も外国人市民もそれぞれが地域社会のメンバーとして参画することにより、お互いに支えあう互助の関係をつくることとなりました。

「生活者としての外国人」が同じ地域に暮らす隣人として、地域活動や交流イベント等に参加することにより、ともにまちづくりの主役として参加を促進していくことが大切です。外国人市民が気軽に集える場づくりを進めるとともに、日本人と交流できる場の開設を拡大していくことにより、多様性を活かしたまちづくりの推進を図る必要があります。

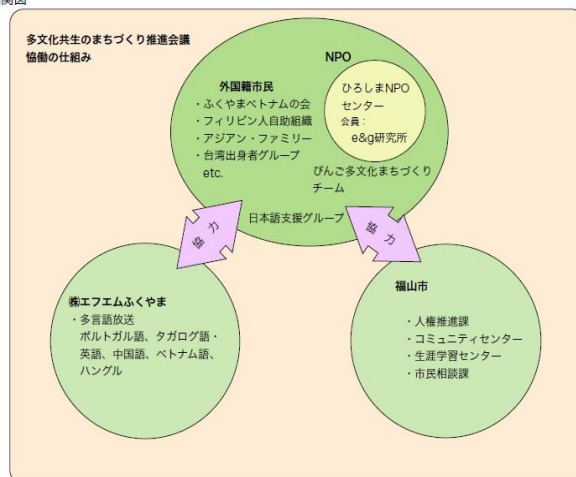
そのために、外国人市民が関心があり、かつ実用的なテーマを通して日本語教室を開催することにより、多くの「生活者としての外国人」が自らが興味を持ち継続的に学習できる内容を創造しながら、日本語教室を開催します。

また、周知方法については、コミュニティ放送やSNSを活用して最新情報を迅速に提供できる体制が整備できました。

今年度構築できた行政、団体、企業による協働の取組を発展させることにより、市内各地で開催している日本語教室相互の情報交換や交流を図り、各教室の特徴や課題を共有することにより、解決の促進を図ることが重要となっています。

また、国際交流協会や多文化共生を推進する団体との協働により、日本語教室等の多文化共生社会を実現するための事業を継続していくこととしています。

当事者の相關図



2014年度の状況 期間 6月7日(土)～2015年3月7日(土)

参加者 11カ国40名（インドネシア10人、中国8人、アメリカ6人、タイ3人、フィリピン3人、ブラジル3人、モンゴル2人、ロシア2人、インド1人、ベトナム1人、台湾1人）

特徴 ふくやま国際交流協会・（公財）ひろしま国際センター共催の日本語ボランティア支援講座（3回）が「日本語教室」を見学して、「日本語教室」のあり方や、学習活動について研修しました。また、日本文化を学ぶ実技講習として、生け花を実施しました。

